

令和4年度学校経営計画書

学校名 三次市立作木小学校
校長名 大下 朋子

I 学校の状況

学級数	7	児童・生徒数	46	教職員数	13
メールアドレス	sakugi-e@school.miyoshi.hiroshima.jp				
ホームページアドレス	www.sakugi-e.hiroshima-c.ed.jp				

II 学校教育目標

ふるさとに学びたくましく生きる子どもの育成 ― 元気 本気で 最後まで ―
【目指す子ども像】自分で考え判断して行動する子ども

III 使命・存在意義（ミッション）

地域の教育力を生かし、児童の力を最大限に伸ばすことで、ふるさとに誇りを持ち、自分の夢や希望に向かって行動する児童を育成する。

IV 重点事項（努力点）

- 確かな学力 ・基礎・基本の確実な定着 ・主体的・対話的で深い学び
- 豊かで健やかな心身 ・自己肯定感の向上 ・基礎体力の向上
- 地域とともにある学校 ・「作木ふるさと学習」の充実 ・積極的な情報発信

V 中心価値・行動規範

- 教育的愛情と使命感をもち、児童の可能性を伸ばします。
- 磨き合い、協働して実践します。
- 働き方改革をすすめ、児童と向き合う時間を大切にします。

VI 現状分析（○成果 ●課題）

へき地性	<ul style="list-style-type: none">○ 自然環境に恵まれ地域資源(人・歴史・文化等)が豊富で体験的な学びができる。○ 「子どもは地域の宝、学校は時代を担う人材育成の場」という認識のもと、学校教育に対する地域・保護者の関心が高く協力的である。● 少子高齢化と過疎化の急激な進行、地域コミュニティーの機能低下等、地域の自立存続、活性化に向けた取組に危機感が強い。● 3つの学校の統合により校区が広くなり地域での子ども同士のつながりや学校と地域の結び付きが弱まっている。また、児童数は減少傾向にある。
小規模性	<ul style="list-style-type: none">○ 保育所・小学校・中学校が各1つで、距離的にも近く、連携が比較的容易である。● 人間関係が固定化しやすく、競い合い高め合う意欲が比較的薄い。
複式形態	<ul style="list-style-type: none">○ 複数の学習が同じ教室内で行われるため、子どもたちは学びの連続性を意識することができる。● 直接指導の時間が少ない。
学力面	<ul style="list-style-type: none">○ 三次市学力到達度検査の全教科で全国平均値を4～10ポイント上回っている。● 活用力や家庭学習への姿勢・定着について個人差が大きい。
体力面	<ul style="list-style-type: none">○ 新体力テストの全国平均以上の項目達成率は70.8%で、目標を達成している。● 約8割の児童がバス通学で歩く機会が日常的に少なく、運動への親しみに個人差がある。
生活面	<ul style="list-style-type: none">○ 素直で何事にも意欲をもって取り組む児童が多く、落ち着いて生活している。● 児童アンケート、i-check等における「自己肯定感」「思いを伝える」「認め合い」の項目の肯定的結果が7割程度であり高くなく、日常生活の場面でもまちがいや失敗など、まわりの目を気にする傾向がある。